

シーティングの研究について

研究者 国立成育医療研究センター 小児内科系専門診療部

こころの診療科 池田真紀子先生

株式会社スペースなるは、0歳～100歳まで、心も体も健康な身体づくりを目指して、訪問看護事業「Tamaステーションなる訪問看護」を行っています。病気や障害の程度に関わらず、定型発達でたどる姿勢、動き、感覚の経験を大切に、環境支援にも取り組んでおり、福祉用具作製業者として「なるのおいす屋さん」や、地域で子どもを支援するための学びの場「のびのび育ちの会」研修を定期的に開催しています。

現在、訪問看護における子どもたちへのシーティングの効果について、国立成育医療研究センター、小児内科系専門診療部、こころの診療科の池田先生と一緒に研究しています。

対象は、弊社のTamaステーションなる訪問看護の利用者さんで、医療的ケア児や小さく早く生まれた医療デバイスのない児、自閉症など様々な疾患や発達特性のある児です。先行的研究として、まずは環境支援の一環でシーティング介入を行ったお子さんたちを対象に、介入前後の記録の収集と、保護者へのアンケート調査を行いました。シーティングの介入方法は、お子さんに合わせて、シュクレ、座位保持装置、市販のパイプ椅子にウレタンフォームを取り付け(※)、座面を一人ひとりに合わせて作成しています。

結果、シーティングが、代償的な身体の緊張を軽減させ、身体面だけでなく子どもの意欲や社会性にもポジティブな影響を与えていること、保護者が子どもの身体を注意深く観察する機会となり、養育に関する意識の変化をもたらしていました。詳細な結果についてはまだ解析中ですが、今後、効果的な使用にむけて、シーティングの調整基準や安全面の基準などの課題を含め前方向的な研究を行う予定です。

前方向的研究において、数名の対象者に、ウレタンフォームで作成したオーダーメイドの椅子と、テーブルを使用してもらい、使用前後の歩行や体重移動、身体の動きを評価しようと考えています。モーションキャプチャーや体圧分散測定などを使用することを検討しています。

※市販のパイプ椅子にウレタンフォームを貼り付け、一人ひとりに合わせて削っています。

